

日本海洋学会 2013年度第6回幹事会 議事録

日時：2014年1月17日（金）13：30～17：30

場所：東京海洋大学9号館203号室

出席者：植松会長、須賀副会長、岡、川合、神田、久保田、杉崎、鈴木、原田、日比谷、山中、寄高、事務局毎日学術フォーラム（出戸、平坂）

欠席者：小畑、津田、河野

議題

1. 議事録（案）確認（神田・川合幹事）

2013年度第5回幹事会の議事録を確認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（岡幹事）

2013年10-11月の入退会について承認した。入会0名、退会3名、逝去1名、2013年11月末現在会員数1793名。

(2) シンポジウム等の後援・協賛等について（岡幹事）

後援・協賛等5件について、MLを通じて審議し承諾したことが報告された。

(3) 募集・推薦等の依頼について（岡幹事）

公募・推薦の依頼、その他シンポジウム・講演等の案内について、適宜MLを通じて周知、対処したことが報告された。

(4) 名誉会員の推薦について（岡幹事）

今回の総会資料となる名誉会員2名の推薦理由書を確認し、承認した。

(5) 奨励論文賞の細則改定について（岡幹事）

日本海洋学会日高論文賞・奨励論文賞細則第1条第2項について、「奨励論文賞は…、当該論文の受付日に筆頭著者が学生会員または28歳未満の通常会員であったものの中から」を、「奨励論文賞は…、当該論文の受付日に筆頭著者が学生会員当該論文の受付日に筆頭著者が学生会員、または学生会員から種別変更して2年以内もしくは30歳未満の通常会員であったものの中から」に変更することを承認した。

(6) 新たな「海洋観測指針」の作成について（岡幹事）

会員から、海洋学会主導による新たな「海洋観測指針」作成についての提案があった。この件については春のシンポジウムにおいて提案・議論が行われる予定であるので、その結果を受けて議論することとなった。また、オンラインで公開してはどうか、企業と連携して最新測定手法の公開・宣伝にも使えるのではないかなどの意見が出された。

(7) 2014年度春季大会シンポジウム開催案について（鈴木幹事）

12件のシンポジウムおよび2件のナイトセッション開催案を承認した。近年、シンポ

ジウムの件数が増えている点について議論した。前回の秋季大会で試みた特別セッションなどを取り入れるなど、何らかの提案を幹事会から大会事務局に提案してはどうかという意見があり、来年度春季大会に向けて対策を考えることになった。まずは3月の評議員会で意見を聞くこととする。

(8) 海洋環境問題委員会設置について（鈴木幹事）

海洋環境問題委員会の設置、その所掌業務および委員について審議し、2013年度および2014年度の委員として、鈴木昌弘幹事（委員長）、梅澤有会員、小川浩史会員、河宮未知生会員、中田薫会員が承認された。

(9) 2014年度青い海助成事業募集について（鈴木幹事）

青い海助成事業の募集要項を確認し、承認した。募集期間は1月20日から3月7日。

(10) JO 特別セクションの申請について（日比谷幹事）

JO 特別セクション「K2S1project（省略版タイトル）」の申し込みがあった。編集委員の数が6名と多いので、編集長を除いて3名にすることを条件に承認することとなった。

(11) JO 投稿料・掲載料について（日比谷幹事）

JO 編集委員会から、投稿論文の質の低下、二重投稿や自己剽窃が出てきたことへの対策として、掲載料を有料にしたいという提案があり、以下が承認された。

- ・投稿料は無料とする。掲載料は一律に、会員 20,000 円 非会員 50,000 円とする（外国会員の掲載料も円で設定する）。
- ・会員割引条件は、「投稿時に責任著者あるいは筆頭著者が会員であること」を条件とする。
- ・JO 編集委員長が掲載料課金の提案に至った経緯をまとめ、幹事会でメール審議・承認を行った後、評議員にメールで意向を伝えることにした（適用開始希望時期も記載）。その上で、3月の評議員会において審議することになる。また、春季大会総会でも報告を行うこととした。

(12) 「福島と海」コロキウムの開催について（植松会長・神田幹事）

放射能による海洋汚染について国際的な発信をするため、外国人相手のコロキウム「フクシマと海」（使用言語は英語のみ）を、海洋学会主催で開催したいという提案がなされ、承認された。東京海洋大学と福島大学環境放射能研究所との共催で、3月14日（金）に、東京海洋大学にて開催する。一般市民、メディア、国際誌関係者、大使館などへの広報を予定している。

(13) 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供（植松会長）

日本学術会議会員および連携会員の推薦について、幹事からの意見をもとに会長が6名を選出し、日本学術会議に推薦することとなった。

3. 報告事項

(1) 会長（植松会長）

学会として支援した SCOR ワーキンググループ設立の提案 (Towards harmonization of global oceanic nutrient data) は残念ながら受理されなかった。環境省から依頼により Global Marine assessment (GMA) の pool of experts に登録する専門家の推薦を行った結果、推薦した会員の登録が行われたことが報告された。

(2) 庶務（岡幹事）

「明日の沿岸環境を築く」の中国語版の出版についての契約書を交わしたこと、また、JO トークンの更新が完了したことが報告された。

(3) 会計（寄高幹事）

本年度の収入の変更点および来年度の予算案が示された。本年度の収入に春季・秋季各大会からの戻り金（寄附金）と NL 編集費の戻り金が増えられた。来年度の名簿発行経費に含まれている名簿調査費（ハガキ代、システム代など）の必要性について議論した結果、個人情報メールで送るべきではない、メールアドレス未登録の会員がいる、請求書の送り先である住所に届けることは重要であるなどの意見が出され、ハガキによる調査の必要性が確認された。

なお、今回の幹事会で議論された JO の掲載料については予算に含まれていない。

(4) 編集

・JO（日比谷幹事）

順調に発行しており、まもなく 70 巻 1 号が発行される。新システム移行後に 460 報の論文を受け付けた。新たな編集委員として西岡純氏が就任した。

・海の研究（久保田幹事）

23 巻 1 号を Web 上で発刊した。今回から 1 号と 2 号を同時に送付することになったため、印刷は 2 号を待って行う。表紙一つの合本とするか、通常通り 2 冊を別々に印刷するかについて議論した結果、費用に大きな差がなければ 2 冊に分けて印刷することとなった。また、賛助会員である会社に勤める方から、海の研究への投稿希望があった。投稿は会員に限られるため、本人に会員になってもらった。

・NL（津田幹事代理岡幹事）

3-4 号の予定について報告があった。追悼文のタイトル「〇〇先生を偲ぶ」は名字だけでなくフルネームを載せるべきだとの指摘があった。

(5) 研究発表（鈴木・山中幹事）

2013 年度秋季大会の収支報告書が届いた。

(6) 選挙（鈴木・山中幹事）

各賞の可否投票および賞選考委員選挙が行われ、各賞がすべて承認されたことが報告された。

(7) 広報（原田・杉崎幹事）

パンフレットの作成について、今月末をもって最終版とする。

(8) 海洋環境問題委員会（鈴木幹事）

2012・2013 年度に青い海助成を受けた 3 件の事業責任者に、2014 年度春季大会においてポスターによる事業報告を行うよう依頼した。この件については大会事務局にも連絡済みである。また、助成対象事業について、管理費用の計上またはオーバーヘッド免除申請の提出を求められたため、「オーバーヘッド免除申請書」を作成・提出したことが報告された。

(9) 日本地球惑星科学連合（原田・寄高幹事）

次回地球惑星連合大会の要旨および参加受付中である。

(10) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（須賀副会長）

渡航援助の募集を 12 月 24 日に開始した。本年度は前後期 2 回に分けて募集を行う予定であり、後期募集は 9 月初めを締切として行う予定。

(11) 将来構想委員会（津田幹事代理岡幹事）

2013 年春に応募した計画「機動的多元的海洋観測体制の確立と運用」について、マスタープラン 2014 を作成し、日本学術会議に提出した。

(12) 震災対応（神田幹事）

東日本大震災復興支援委員会 汚染水問題対応検討分科会に神田幹事が参加することになった。次回会合は 2 月の予定。

(13) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事代理植松会長）

2013 年 11 月 29 日、日本学術会議主催の学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」が、水産・海洋科学研究連絡協議会他共催、日本海洋学会他後援で開催された。

(14) 若手支援（須賀副会長）

若手会員メーリングリストを作成し、チェックを行った。学生会員を全員登録する。登録された人および会員全員宛てに説明文を送る予定。また、入会申込書に、「学生会員は自動で若手 ML に登録される。不要であれば削除すること」という内容の文章を記載する。

次回幹事会 3 月上旬（未定）時間・場所未定